

平成26年度
「運営に関する計画」

大阪市立海老江東小学校
平成26年4月

大阪市立海老江東小学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【現状】**

本校は平成 25 年度で創立 80 周年を迎えた。現在は 15 学級（内特別支援学級 3 学級）児童数 322 名、教職員は 27 名である。JR 大阪駅から西 2 km に位置し北は淀川、南は阪神野田駅に挟まれた交通の便の良い地域である。

校区には古くからの街並みと新しくできたマンションが混在し、ここ数年は児童数増加の傾向にある。地域住民の学校に対する思いは熱く強く、学校とともに取り組む行事も多い。校下にある八坂神社の祭りは特に盛んで、東西南北の町の山車が町を練り歩き賑わう。住民は祭りを中心とした組織で強く結びついており、町ぐるみで子どもを育てていくといった文化が受け継がれている。また、校外での子ども会の活動が盛んで、子ども祭りやソフトボール・キックベースボールなども熱心に行われている。

児童は、家庭環境が安定していることで多くは落ち着いているが、近年、家庭が崩壊状態にある児童も見られ、児童を取り巻く問題は、年々多様化複雑化している。そのことが担任本来の学習指導以外の仕事量が増し過重な負担となっている。また、学級の中に特別支援を要する児童も増加しており、個別の対応も増えている。

知：学力の面では、長年にわたる読書活動が実を結んでおり、集中して本を読むことなどの習慣が身についている。学習意欲が高い児童も多く、家庭での学習時間も平均 42 分と、本校のめざす 45 分に近い値を示している。しかし、国語・算数については上位群と下位群の 2 極化傾向が見られるのもまた事実である。特に国語科では、自分の意見をはっきり言うことや資料をもとに自分の意見をまとめるなどの活用に問題に課題がある。

徳：心の育成の面では、全体的には自尊感情が高いが、自己抑制がきかない児童もいる。その数は年々増加する傾向にある。また、いじめ調査によてもいじめ事案は見つからないが、いじめにつながりかねないと思われるからかい事案などが見られる。個性を認め合う「いいとこみつけ」や縦割り班（異学年集団）活動などの活動を通して豊かな心の育成に努めている。

体：健康・体力の面では、跳躍や持久力が全国平均を下回っている。運動場が狭いということも関係しているが、期間を決めて短縄運動やかけ足運動を実施することなどを通して、児童の運動に取り組む環境づくりをしてきている。さらに、運動に親しめる新たな取り組みを考えていく必要がある。

【課題】

- ◇ 学力の向上に向けて、児童の学習意欲を維持向上させるための仕掛けづくりを行う（自主学習ノートやポートフォリオ）
- ◇ あいさつができる・仲間を思いやる・自分の感情をコントロールできるなど「心の教育」を推進する。
- ◇ 児童が運動に親しめる環境づくりを進める。（ラダートレーニング・縄跳び進級表の設置）
- ◇ 虐待の事案も数件起こっており、関係諸機関と連携して改善に努めている。
- ◇ 教職員のさらなる資質の向上のため外部人材の活用を図る。

中期目標

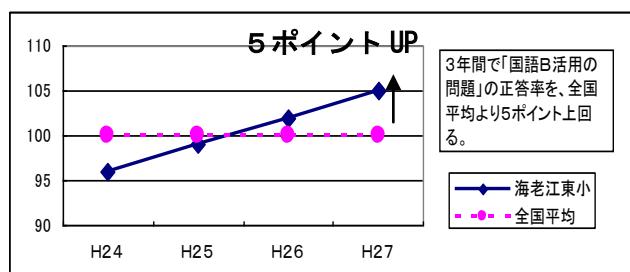
【視点1 学力の向上】

国語の活用力の向上 (カリキュラム改革関連)

A 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「国語の主として活用の問題」の正答率を全国平均より5ポイント向上させる。→ **H25達成**

※H24: 本校53.5→**58.0**
全国55.6→**49.4**

国語の活用力の向上



自主学習の定着 (カリキュラム改革関連)

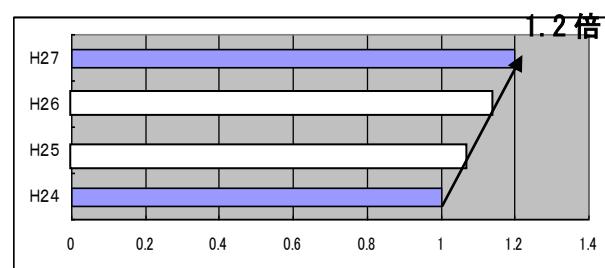
B 平成27年度末に、児童一人当たり1日の家庭学習の時間を平成25年度はじめの1.2倍にする。 **H25未達成**

25.7…45.2分 H25.12…46.7分 1.03倍

C 児童一人当たり1日の家庭学習の時間の調査を年度初めに実施するとともに、家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。平成27年度末の学校アンケートの「自主学習の仕方がわかった」の割合を70%以上にする。→ **H25達成**

H25.12学校アンケート 87%

自主学習の定着



D 平成27年度末の学校アンケートで「家で学校の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を50%以上にする。

※学テH24本校: 予習33.3%—復習40.4%
全国: 予習40.5%—復習50.2%

→ **H25達成 H25.12学校アンケート 77%**

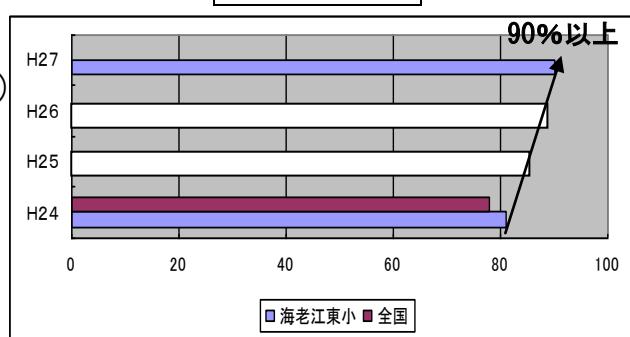
【視点2 道徳心・社会性の育成】

自尊感情の向上 (カリキュラム改革関連)

E 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。

※H24本校: 81.0% 全国: 77.8% → **H25達成 H25 本校: 90.4% 全国: 75.7%**

自尊感情の向上



あいさつの励行と定着 (カリキュラム改革関連)

F 平成27年度末の学校アンケートで、「すすんであいさつをしている(どちらかと言えばしている)」と答える児童の割合を90%以上にする。

→ H25.12 学校アンケート 88%

いじめへの組織的対応 (マネジメント改革関連)

G 学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。

→ H25 達成 いじめ事案は認められず、諸問題を生活指導段階で解決

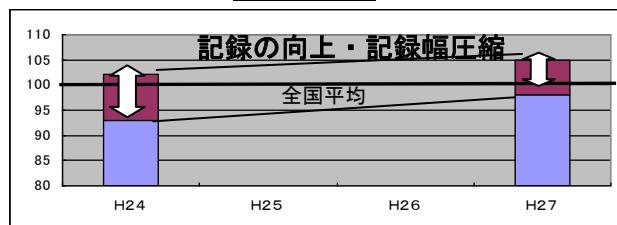
体力の向上

【視点3 健康・体力の保持増進】

体力の向上 (カリキュラム改革関連)

H 平成24年度の体力テスト(5年生)の各種目の結果が全国平均の93~112%の幅にあるのを、平成27年度までに98~115%に向上させる。

→ H25 体力テスト結果 95(20mシャトルラン)~122%(ボール投げ)



【視点4 外部人材の活用による学校活性化】

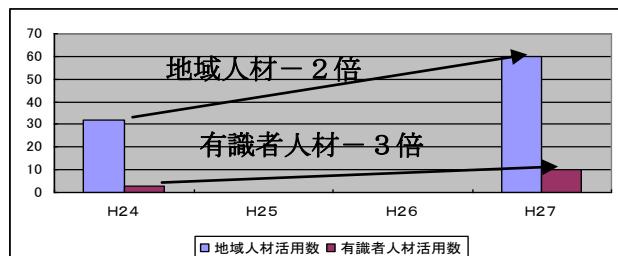
体験活動の充実 (ガバナンス改革関連)

I 平成24年度の地域人材活用数を2倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。

※H24地域人材の活用数: のべ32名
→ 60名以上

→ H25 達成 H25.12 93%
のべ63名

外部人材の活用による学校活性化



教職員の資質向上 (学校サポート改革関連)

J 平成24年度の学識経験者人材活用数を3倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。

※H24学識経験者人材の活用数: のべ3名 → 10名以上

→ H25 達成 H25.12 100% のべ10名

2 中期目標の達成に向けた平成26年度目標

【視点1 学力の向上】

a 平成26年度の全国学力・学習状況調査における国語の主として活用の問題の正答率を全国平均より5ポイント向上させる。※H25:本校58.0 全国49.4 (カリキュラム改革関連)

a-1 英語活動を通して、コミュニケーション力がついたと感じる子どもの割合を50%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

b 児童一人当たり1日の家庭学習の時間を1.1倍の50分にする。 H25:45.2分 (カリキュラム改革関連)

c 家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。学校アンケートで「自主学習の仕方がわかった」の割合を70%以上にする。H25:87% (カリキュラム改革関連)

d 学校アンケートで「家で学校の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を70%以上にする。 H25:77% (カリキュラム改革関連)

【視点2 道徳心・社会性の育成】

e 平成25年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。 H25:90.4% (カリキュラム改革関連)

f 学校アンケートで、「すすんでいさつをしている(どちらかと言えばしている)」と答える児童の割合を80%以上にする。 H25:88% (カリキュラム改革関連)

g 学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。 (マネジメント改革関連)

【視点3 健康・体力の保持増進】

h 平成24年度の体力テストの各種目の結果を分析し、弱点を補う運動を考案し、児童が平素から体力づくりに取り組める環境づくりを行う。 H25:95~122% (カリキュラム改革関連)

【視点4 外部人材の活用による学校活性化】

i 平成24年度の地域人材活用数を1.5倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。

※H25:のべ63名の活用 93% (ガバナンス改革関連)

j 平成24年度の学識経験者人材活用数を2倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。

※H25:のべ10名の活用 100% (学校サポート改革関連)

3 本年の自己評価結果の総括

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】	
a 平成26年度の全国学力・学習状況調査における国語の主として活用の問題の正答率を全国平均より5ポイント向上させる。※H25：本校58.0 全国49.4 (カリキュラム改革関連)	
a-1 英語活動を通して、コミュニケーション力がついたと感じる子どもの割合を50%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	
b 児童一人当たり1日の家庭学習の時間を1.1倍の50分にする。※H25：45.2分 (カリキュラム改革関連)	
c 家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。学校アンケートで「自主学習の仕方がわかった」の割合を70%以上にする。※H25：87% (カリキュラム改革関連)	
d 学校アンケートで「家で学校の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を70%以上にする。※H25：77% (カリキュラム改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【言語力や論理的思考能力の育成】 ・自分の考えをまとめて分析し発表する力が弱いので、その力を高めるために音読・観察・漢字練習などの反復練習をして、基礎的な学力を向上させる。	a
指標 ① 家庭学習での国語の音読回数を年間100回以上にする。 ② 全学年年間20回以上の観察活動を実施する。最終回の「速さと字数」を1回目より3%向上させる。(同一プリントで比較) ③ 漢字練習の仕方を定着させ、漢字テストの個人平均点が50点以下の子どもを1割以上50点以上にする。 ④ 英語の授業後アンケートで「英語でコミュニケーションできた」という子どもの割合を50%以上にする。	
取組内容②【習熟度別少人数授業の充実】 ・習熟度別少人数授業を行うことにより、丁寧な資料の読み取りと発表の機会を増やし、自分の考えをまとめて発表する力を向上させる。	a
指標	

① 平成24年度の学習理解度到達診断の資料分析により「資料について考えをまとめる問題」の正答率を3%向上させる。	
取組内容③【活用力の向上】 ・デジタル教科書を活用し、視覚的に教材提示し比較や関係付けをさせ、児童に説明させる場を増やすことで、国語の活用力を向上させる。	a
指標 ① 平成26年度の全国学力・学習状況調査の国語の活用の問題の正答率を全国並みに向上させる。	
取組内容④【自主学習習慣の確立】 ・家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。	b
指標 ① 児童一人当たりの1日の家庭学習時間を各クラス5%増やす。	
② 学校アンケートを実施し、「自主学習の仕方がわかった」の割合を50%以上にする。	c
③ 学校アンケートで「家の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を50%以上にする。	d

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
取組内容①			
指標①		指標②	
指標③		指標④	
取組内容②			
指標①			
取組内容③			
指標①			
取組内容④			
指標①		指標②	
指標③			

次年度への改善点	

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】	
<p><input type="checkbox"/> e 平成25年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。 ※H25本校：90.4% (カリキュラム改革関連)</p>	
<p><input type="checkbox"/> f 学校アンケートで、「すすんであいさつをしている(どちらかと言えばしている)」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p>	
<p><input type="checkbox"/> g 学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。 (マネジメント改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【道徳教育の推進】	e
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を通して、①「自分のよさを知り認める」②「友だち（他の人）のよさを知り認める」③「仲間づくりを大切にする」の3本柱で取り組む。週一回ある道徳の時間に、副読本やクラスの児童の日記、作文など様々な資料を通して自尊感情を高めるようにする。 ・「朝の会」「帰りの会」「学級活動」などで、機会があるごとに「うれしかったこと」「親切にしてもらったこと」などを発表しあいさつのよさを認め交流しあう場を設定する。 ・学校だよりや学年だよりなどで「よさをみつけほめること」を保護者にも啓発し意識を促す。 	
指標	
① 中間評価前と年度末の年2回アンケートを実施し、自尊感情の高まりを測る。「自分にはよいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。	e
取組内容②【道徳教育の推進】	f
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ強調月間や児童会のあいさつ運動週間を設定する。 	
指標	
① 学校アンケートを実施し「すすんであいさつをしている(どちらかと言えばしている)」の割合を80%以上にする。	f

<p>② あいさつ運動実施後の振り返りカードに「担任の先生以外の教職員や来客、友だちにも自分から進んであいさつができたか」という項目を入れ、出会った人に進んであいさつをするという意識付けを図る。</p>	
<p>取組内容③【いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会(生活指導連絡会)を中心に校内の状況を全教職員で点検し共通理解するとともに、いじめと認められる事象について迅速にかつ組織的に対応する。 <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① いじめ対策委員会(生活指導連絡会)を月1回実施し全教職員で状況を把握する。 ② いじめを早期に発見し組織的対応率を100%にする。 	g

<h3>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</h3>	
<p><u>取組内容①</u></p>	
<p>指標①</p>	
<p><u>取組内容②</u></p>	
<p>指標①</p>	
<p>指標②</p>	
<p><u>取組内容③</u></p>	
<p>指標①</p>	
<p>指標②</p>	

<h3>次年度への改善点</h3>

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>h 平成24年度の体力テストの各種目の結果を分析し、弱点を補う運動を考案し、児童が平素から体力づくりに取り組める環境づくりを行う。H25：95～122%</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【健康な生活習慣の確立】</p> <p>・早寝・早起きなどの生活習慣について振り返りカードを活用し、生活習慣の改善を図る。</p> <p>指標 ①生活習慣のチェックカードを作り、年2回実施する。年度末に生活習慣について意識が高まった児童の割合を80%以上にする。</p>	h
<p>取組内容②【体力向上への支援】</p> <p>・プール水泳や持久走では、めあてを作り6年間で達成できるようにする。</p> <p>・縄跳び運動や駆け足運動を継続して取り組み、自己の伸びを記録していく。</p> <p>・ラダートレーニングを活用し、敏捷性や持久力を高める。</p> <p>指標</p> <p>① 自己の記録の伸びが自覚できる記録カードを作成してファイルにとじ6年間活用する。</p> <p>② 体力ビンゴに取り組み、運動が好きな児童の割合を80%以上にする。</p>	h

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<u>取組内容①</u>
指標①
<u>取組内容②</u>
指標①
指標②

次年度への改善点

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 外部人材の活用による学校活性化】	
<p>i 平成24年度の地域人材活用数を1.5倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った（どちらかと言えば役立った）」の割合を80%以上にする。 ※H25：のべ63名の活用 93% (ガバナンス改革関連)</p> <p>j 平成24年度の学識経験者人材活用数を2倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った（どちらかと言えば役立った）」の割合を80%以上にする。 ※H25：のべ10名の活用 100% (学校サポート改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【体験活動の充実】 ・平成24年度の地域人材活用数を1.5倍にして子どもの体験活動の場を増やす。 ※H25 本校地域人材活用数：63名	i
指標 ① 学校アンケートを実施し「体験が将来に役立った（どちらかと言えば役立った）」の割合を80%以上にする。（H26 地域人材活用数：51名の予定）	
取組内容②【研修の充実】 ・平成24年度の学識経験者人材活用数を2倍にして教職員の研修の場を増やす。 ※H25 本校地域人材活用数：10名	j
指標 ① 教職員アンケートを実施し実施した研修が「授業や指導に役立った（どちらかと言えば役立った）」の割合を80%以上にする。（H26 地域人材活用数：7名の予定）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<u>取組内容①</u> 指標①
<u>取組内容②</u> 指標②

次年度への改善点